



內的距離

人は、
近づく前に、
すでに入れないと知っている。

距離は、測られていない。
けれど、決まっている。

動く前に、
もう、そこに入れるかどうかは終わっている。

距離は、
社交性ではない。

話しかけやすさでも、
人懐っこさでもない。

心を開いているかどうかでもない。

それらはすべて、
すでに決まったあとに現れる。

人は、近づく前に、
境界で止まっている。

入れるか、
入れないか。

その判断は、
言葉より先に終わっている。

近づけない人は、
拒まれているのではない。

そこに、
入る余白がないだけだ。


距離は、
拒絶ではなく、
すでに在る状態として現れる。

だから、
何もしていない人に、
人が集まることがある。

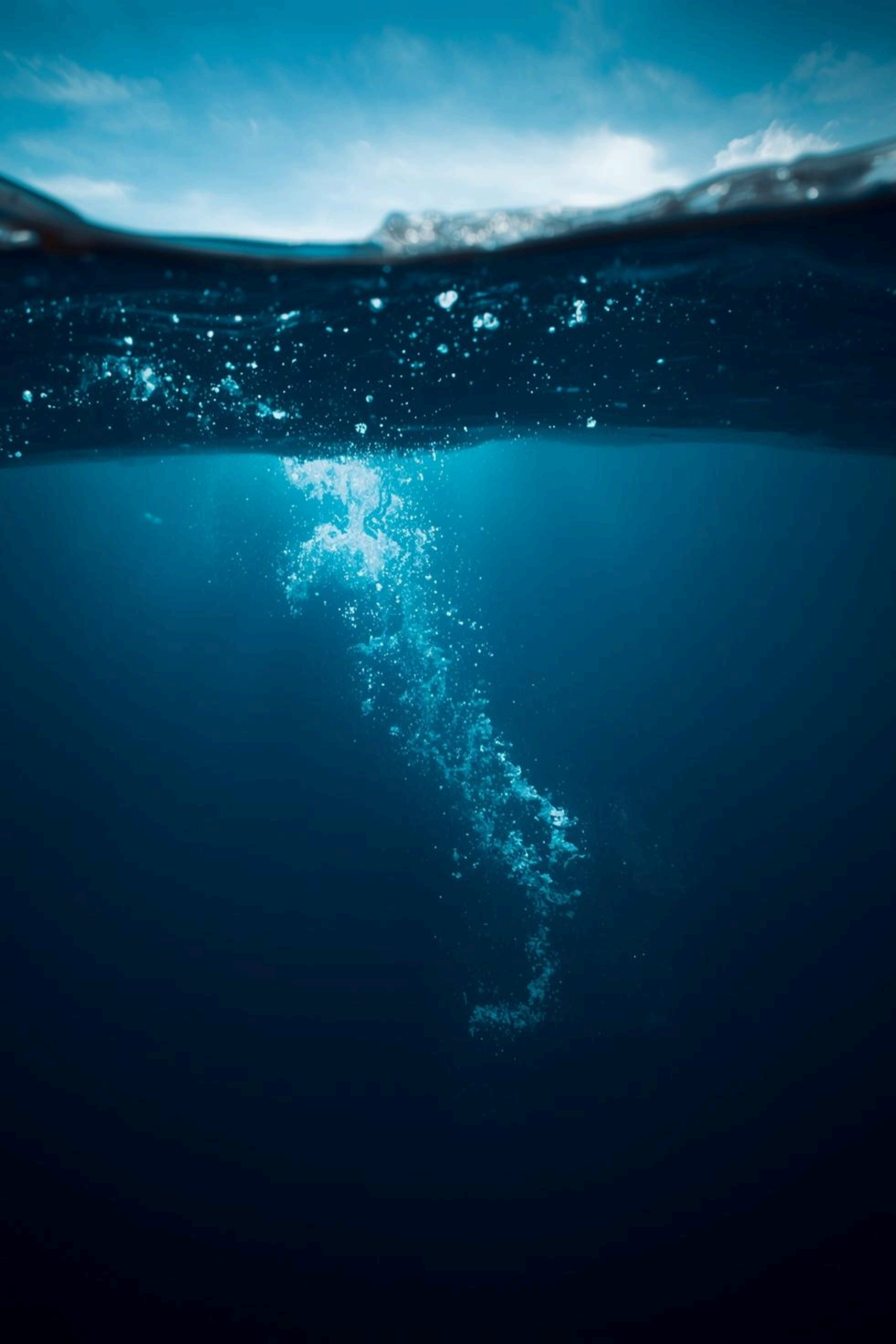
近づこうとする人ほど、
距離は遠い。

一歩引いている人ほど、
なぜか、近い。

距離は動かない。
ただ、そこに現れる。

A person is seen from behind, climbing a steep, rocky mountain slope. The person is wearing a dark jacket and light-colored pants. The sky is bright and blue, with some clouds. The overall scene is one of a challenging outdoor activity.

近さは、
越えられるものではない。



Edition — 存在の芯
別景：内的距離

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026